

近代化遺産 近代先人顕彰館



平成元年当時



大正12年に建てられた旧下関電信局電話課庁舎は、下関の近代化遺産の注目すべき初期洋風建築の一つです。

この建物は、建築界に大きな足跡を残した山田守の初期作品で、老朽化に伴い解体を決定した市に対して、平成11年、市民が激しい保存運動を展開して守り抜いたものです。平成20年に、近代先人顕彰館「田中絹代ぶんか館」と名を変え、装いも新たにになりました。